

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 372

2025年5・6月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎学内線 7540 学外線 781-1111

夏も近づく八十八夜♪
(急な暑さにご注意)



<今回の注目記事>

国際開発研究科リレーエッセイ：外国語学習のはなし
関 能徳准教授

日本史×科学：第5回江戸時代の色・藍色を科学する

本棚をながめて：繰り返し読むこと

ランニングライフ：名古屋ウィメンズマラソン 他

生協からのお知らせ：名大グッズ紹介（超〇〇力のタオル）

総代会を開催します（5/29 @南部食堂）

なごねこ便り・里親決まりました

ねこ写真もちろんあるよ！



WEB版
(カラー有)は
こちらから



第97回通常総代会を下記の通り開催します

日時：5月29日（木）18時30分より
場所：南部食堂1階 Mei-dining
ご意見はこちら（<https://www.nucoop.jp>、または「名大生協」で検索）
※5月12日頃にご意見・ご質問フォームを準備します。

総代会は生協の最高議決機関で、前年度の活動の振り返りと決算の承認、今年度活動方針と予算および新役員を決定する最も重要な会議です。現在、議案書を作成しております。
完成次第、総代のみなさまには議案書とともに書面議決用紙などを送らせていただきますので総代会当日実出席が困難な総代のみなさまは書面議決にご協力をお願いします。

総代会では以下の5つの議題を提案し、総代のみなさまに協議いただく予定です。ぜひご意見をお聞かせください。

また、「教職員組合員懇談会」の開催も5月に予定しています。

この場には生協の職員も参加し、教職員組合員のみなさまからの率直なご意見を頂ければと思います。
（詳細は教職員委員会からご案内をいたします）

第97回通常総代会の議案は以下です

- 【第一号議案】 2024年度事業報告書・決算関係書類等承認の件
- 【第二号議案】 2025年度事業計画及び予算承認の件
- 【第三号議案】 2025－2028中期計画決定の件
- 【第四号議案】 監事監査規則改正承認の件
- 【第五号議案】 役員報酬決定の件

特に今回の総代会では2025年度から2028年度の3年間の中期計画についてご確認をいただく予定となっています。

コロナ禍以降、社会は大きく変化しており組合員のみなさまの生活や学び方なども変わってきています。また物価の高騰など経済的な影響も踏まえた上で、名古屋大学生協は組合員のみなさまの生活にどのように貢献していくのかという事をご確認いただきたいと考えています。



次号の「かけはし」には総代会の報告を掲載いたします。

国際開発研究科リレー・エッセイ???

外国語学習のはなし

関 能徳

昨今のIT技術の発展は目覚ましく、特にAI（人工知能）技術はわたしたちの生活を大きく変えようとしています。日常生活だけでなく、AIを活用した技術は学びにも少なからぬ影響がありそうです。わたしの娘はこの春から小学校2年生で、学校からはタブレットが支給され、毎日の宿題の中にはタブレット上で漢字を練習するなんてものもあります。これがなかなか難しく、正確な書き順で書くだけでなく、トメ、ハネまできちんと行わないとなかなかハナマルがもらえません。試しに「森」という字を書いたところ、10回以上挑戦してようやくAIからマルをもらえる始末。父の威厳が消えてなくなった瞬間でした。

AI技術は外国語に対するわたしたちのアプローチも大きく変えつつあります。自動翻訳サービスを使って、日本語で書いた文章を英語に翻訳したり、外国人が作成したYouTubeの動画を観るときに字幕機能を使って日本語の字幕を入れたり。翻訳の精度は100%と言えないにしても、実用に耐える水準の出来です。こんな時代になってくると、外国語学習はあまり重要でない気がしてきます。コスパが非常に悪そうです。便利な技術を否定しませんし、積極的に有効活用すべきだとは思いますが、わたしは何か違和感を覚えます。

ここでわたし個人の話をしめすと、これまで勉強した外国語は英語、フランス語、ドイツ語、セルビア語・クロアチア語と4.5か国語になります（セルビア語とクロアチア語はかなり似ているので2つで1.5とカウントしています）。英語は義務教育で、フランス語は大学に入ってから、セルビア語・クロアチア語は大学院での研究のために、ドイツ語は最初の就職先がドイツの大学だったから、というのが主な理由です。これだけ聞くと、語学大好き人間みたいな印象を受けるかもしれませんが、わたしにとって外国語学習の始まりはあまり幸先のよいものではありませんでした。

受験を経て東京都内の某私立中学校に入学しました。中高一貫校だったこと

もありしばらくのんびりと勉強していました。授業はそこそこ真面目に受けていたと思いますが、中学3年の時に英語の試験で赤点を取り、母が青褪めたのを今でもよく覚えています。後になって気づいたのですが、わたしの学校ではあまり英文法を教えてくれていなかったようで（あくまで体感ですが）、わたしは do と does の使い分けといったごくごく基礎的なところすら中学3年生のときに理解していませんでした。赤点も納得です。英文法をきちんと学ぶことでさすがに赤点を取ることはなくなりましたが、わたしは基本的に暗記が好きではなかったので、英単語を覚えるのが苦痛で仕方ありませんでした。

なんとか英語を好きになろうと、友人が貸してくれた洋楽の CD を聴いたりもしました。少しは効果があったと思いますが、学校の勉強にはそこまで役立たなかった気がします。英語学習の転機のひとつは、大学受験で英作文が必要だったので、塾で普通の英語の授業に加えて英作文の授業を受けたことです。意外だったのは先生が決して日本語の逐語訳を要求しなかったことです。まずお題となる日本語の文章を噛み砕き、文意が正確に伝われば拙い語彙でも合格点をくれました。これならなんとかなりそうだと、辞書を片手に、単語とその横に載っている例文を血眼になって読みながら、毎週英作文に取り組みました。高校3年生の一年間、塾から帰宅した夜 10 時過ぎに、NHK のラジオ英会話を毎日聴いていました。マーシャ・クラッカワー先生という非常にチャーミングな方が担当していたこともあり、楽しんで発音の真似などしました。難しい英単語を覚えるのは諦めて、とりあえず勉強中に出てくる単語だけはしっかりモノにしようと思いました。語彙力はたいして伸びませんでした。作文とリスニングの勉強が功を奏して、高校を卒業する頃には片言で自分の言いたいことが話せるようになっていました（いまから思えば随分拙いものでしたが）。

東京都内の大学に合格し、わたしの進学した学部は第二外国語が必修ではありませんでしたが、大学では第二外国語を勉強するものだ（なぜか）と思っていたわたしは、決断を迫られることになります。高校時代、ドイツ文学やロシア文学を読み、特にフランツ・カフカが好きだったので、ドイツ語を勉強してカフカの作品を原書で読みたいと思いました。しかし、いざ入学書類上で第二外国語を選ぶ段になり、「いや待てよ、ドイツ語よりもフランス語の方が世界では話す人が多いんじゃないだろうか」と思い、ただそれだけの理由で急遽フラ

ンス語に方針転換しました。歴史社会科学でいう「重大局面（critical juncture）」です。この選択はその後のわたしの人生の大きな分かれ道となります。

大学で出回っていた授業情報誌によると、わたしの学部にはフランス語を担当する先生が2人いて、1人は「楽」な先生、もう1人は「鬼」という評価でした。何を思ってたわたしは「鬼」先生の授業を選びました。履修者は10人くらいいたでしょうか。毎週出席するのは2、3人、たまに出席者はわたしだけという回もありました。今から思えば贅沢なものです。先生は出席者が少なくても一切妥協せず、1年で初学者向けの薄い文法書をすべてこなしました。単語を覚えるのは相変わらず苦手で、おそらく大学に入って最初の2年間、授業以外に自習室などで勉強した時間はほとんどすべてフランス語学習に費やしたと思いますが、たいして語彙力は伸びませんでした。

フランス語を勉強し始めて1年が経ったころ、全学に設置されている語学専門の機関でフランス語会話の授業を取れることを知ったわたしは、早速履修してみることにしました。1年間座学で学んだフランス語はまったく口から出てこず、まず言いたいことを比較的文法が似ている英語で考え、それをフランス語に翻訳するという新しい試みが始まりました。他の受講生には、交換留学先のアメリカから帰ってきた先輩たち、フランス文学専攻の先輩など強者揃い。アメリカ帰りの人たちは間違っただけでとにかくよく喋る。英単語をフランス語っぽく発音してでも、どんどん会話に入ってきます。仏文の学生は素晴らしい語彙と知識を披露。最初はただ会話を聴くので精一杯でしたが、なんとか喰らいついていくうちに、少しは言葉が出てくるようになりました。

大学3年生になり、卒業後に海外で働くことを淡く夢見ていたわたしは、交換留学を試みることにしました。しかし、英語ができる人は他に山ほどいて、とてもわたしの英語力では希望するような（有名な）大学には行けそうにありません。フランス語を一生懸命勉強していたのは、フランスの大学なら競争相手が少ないのでいい大学でも行けるのではないかという目論見もありました。運良くフランスのエリートが通うパリ政治学院に留学することとなりました。わたしの大学からは3人が派遣され、韓国人の超優秀な大学院生が1人、わたし、そして別の学部の女子学生という構成でした（この女子学生が10年ほど

のちに妻となるわけですが、当時はお互いにそんなことになるとは露知らず…）。

一人暮らしだけでなく、自炊や洗濯なども生まれて初めての留学生活がバリで始まりました。海外経験も大学のゼミで参加したヴェトナムでの2週間のスタディ・ツアーだけでした。フランス文学やフランス文化に特に興味もなく（とはいえ留学を機会に読んだエミール・ゾラの作品はかなり好きになりました。『居酒屋』はオススメです）、強いて言うならフランス現代思想（当時はブルデュー、フーコー、デリダなどが日本でもてはやされていました）のみに興味のあったわたしが、四苦八苦しながら1年間を過ごしました。英語が大して得意でない自覚があったので、とにかくフランス語で同級生と話すことを徹底した1年でした。初めての海外暮らしで得た大きな気づきは2つありました。

1つ目は話すときのリズムやテンポです。授業では大講義を聴くだけでなく、小グループに分かれてのゼミ形式の授業がいくつかありました。そうすると授業中に先生に質問したり他の学生とディスカッションしなくてはなりません。初めのうちは一生懸命発言しても、どうしても理解してもらえないことが多々ありました。その一方で、たとえばスペインからの留学生はすぐきついスペイン語訛りのフランス語なのに、皆理解しているようです。一部の単語なんて、それフランス語でなくスペイン語だろ！と思わず突っ込みたくなるにも関わらずです（たとえば英語でいう because の parce que をスペイン語のまま porque と言うなど）。あの酷いスペイン語訛りを皆は理解できて、自分のフランス語がどうしても分かってもらえないのか、あまりの悔しさにしばらく悶々としていました。気付いたのは、ひとつの単語を正確に発音しようとし過ぎるあまりに、わたしがしばしば一単語を途切れ途切れに発音していたことでした。自分としては一単語を発音しているつもりでも、聞いている人からしたら途中で流れが止まるので二単語なのかと勘違いされているようでした。試しに発音の正確性は二の次に、できるだけテンポよく話すように心がけました。一部単語の発音が不正確にも関わらず、こっちのほうが相手に理解してもらえることが増えました。

2つ目は思考様式の変化です。日本語で言いたいことを考えて、それをフランス語に訳してという手順を踏んでいると、とてもではないですが会話の流れ

についていけなくなるので、嫌でもフランス語で日々考えざるをえません。日本語のように主語や目的語を文脈によって省略できる言語と違い、フランス語はすべてを明確にする必要があります。「明晰ならざるものはフランス語にあらず（Ce qui n' est pas clair n' est pas français）」という格言があるくらいです。そうすると自ずと、話し方や話す内容も変わってきますし、先に挙げたリズムやテンポと関連して、ネイティブの人たちが親しんでいる抑揚や表現方法を使うようになります。次第に日本語で話す自分とフランス語で話す自分が別人格のような感覚さえしてきます。個人的にはそれってとても刺激的だし、面白いことのように思います。言語が変わり、文法や語彙、言い回しが変われば、「別の」自分を使い分けることは当然のことなのかもしれません。おそらくこれが機械翻訳に対してわたしがいま抱く違和感のひとつなのだと思います。機械翻訳でももちろん意味はかなりの程度伝わります。でもその言葉を発するときの文脈、息遣い、会話する相手との間合いや暗黙の了解、選ぶ言葉の歴史や文化的背景など、言語を学ぶ楽しさはなかなか奥深いものだと思います。

別の自分という点に関して言うと、外国語を喋るとどうしても素の自分が出せないかもしれないとすれば、いろいろな出自の人が外国語としての英語を共通言語として話し合うと、意思疎通に限界があるのかもしれませんが。皆どこかで無理をしているかもしれないからです。フランス語を勉強していて良かったと思うのは、たとえばその後セルビアのユース・ホステルで出会ったチュニジア人の医学生、モロッコの電車内でぼったくりホテルを紹介しようとしてきた現地のおじさん、マケドニアの小学校のフランス語の先生（アルバニア人）など、英語があまり得意でなかったりできない人たちと、彼らが不自由なく喋ることができるフランス語で、いろいろな話ができたことです。おそらく彼らの本音に迫れたのだと思います。

セルビアで調査をしていた時に知り合ったあるセルビア人のおじさんから、「たくさんの言語を話せる人は尊い」という言葉があると教えてもらいました。最近はすっかりフランス語、ドイツ語、セルビア語、クロアチア語を話す機会も減り、どんどん忘れていってしまっています。あるクロアチア人の方からいただいた「言葉って自転車に乗るようなものよ。忘れたと思って、ま

日本史×科学 第5回「江戸時代の色・藍色を科学する」

文責：鳥飼

たとえば（自転車を漕げば）自然と思い出すものよ」という言葉を胸に、ひとまず国際開発研究科のオチア先生に最近はフランス語の練習につきあってもらっています。Merci beaucoup, monsieur!!

フランスからの帰国後のこと、セルビア・クロアチアでの体験談、アメリカへの博士課程留学、ドイツでの就職や第一子を授かる話など、まだまだお話ししたいことはあるのですが、紙幅の関係上今回はここまでとしたいと思います。いろいろ書きましたが、読者の皆さんに贈りたい一番のメッセージとしましては、外国語学習に遅いも早いもないということです。思い立ったが吉日、AIの発展著しいこのご時世ですが、英語やそれ以外の外国語も、コスパがどうこう考えずに楽しく学んでみませんか？何より新しい自分に出会えるかも知れませんよ！？

藍色とは

パソコンで色を表現するとRGB(Red, Green, Blue)ではR35G71B148(16進数表記だと#234794)。もしくは印刷用のCMYK(Cyan, Magenta, Yellow, Kuro)ではC99M80Y13K0でも表現されます。明治初期に來日したイギリス人科学者にジャパンプルーとも言われた伝統の色です。今年2025年の大河ドラマ「べらぼう」で藍染の着物や暖簾が目につきます。当時庶民の衣類は麻から木綿(木綿は戦国・安土桃山時代頃から普及)、木綿は藍色がよく染まっただけです。

これが藍色
(カラーWEB版で
確認してね)

藍染の歴史

紀元前3000年頃のインダス文明の遺跡に染色槽があったことから、その頃には藍染めが行われていたようです。日本の藍染めの古代史料は法隆寺や正倉院にあることから、飛鳥時代～奈良時代に渡来したと推測されます。大仏開眼供養に使用した紐「縹縹」(縹も藍色の一種)(縹は「一縹の望み」のように紐の意味)が、その藍染めの史料の代表格です。開眼するための筆の末端に繋がれた紐で、この紐を触ることでご利益を得ると考えられたようです。

藍色の科学

日本ではタデ藍や琉球藍という植物を使った染色技術がありましたが、海外では、その土地にある別の草で染色をやっています。植物の中に天然色素「インディゴ」やその元になる物質があれば良いのです。

タデ藍は色素インディゴを含まない、見た目は緑色の草です。インディゴはありませんが、前駆物質インディカン(もしくはインジカンとも表記)を含んでいます。インディカンは無色の物質ですが、インドキシルという水溶性の物質を作ることができ、インドキシルは紫外線と空気中の酸素で酸化することで、インディゴに変化し藍色に発色します。

インドキシル配糖体(インディカン)

→発酵または加水分解でインドキシルとグルコースに分離

→空気酸化でインドキシルがインディゴに変化し染まる

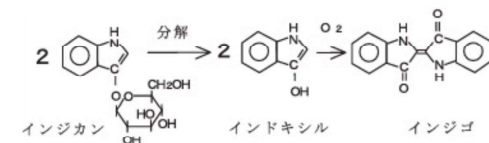


図1 インジゴの生成

阿波藍(タデ藍)

日本で特にタデ藍の産地といえば徳島「阿波藍」です(他にも産地はあります)。徳島県の吉野川は氾濫が多い暴れ川なので、流域は稲作に不向きなのですが、タデ藍は成長が早く氾濫の時期より早く収穫できるため、江戸時代に阿波藩が栽培を奨励したそうです。

植物としてのタデアイの特徴は「タデ科の一年草・草丈 50cm~1m・花の形はイヌタデ(春~秋)に似ている」ですが、藍としての収穫は開花前に(6月頃~)に行います。葉が収穫対象です。

<加工方法>

藍の葉っぱを刈り取り、細かく裁断して乾燥

→水をかけて発酵、黒茶色の塊(腐葉土状)にする(「すくも」と呼ばれます。この作成に数ヶ月かかります)

→さらに白でついて餅状にすると「藍玉」という。江戸時代の加工方法(現代ではほとんど行われていません)

すくも・藍玉の利点

- 運搬・保存のしやすさ
- 染色作業の季節を問わない(温度調節は必要)
- 染色液が長持ちするので繰り返し染色する事が可能になり、濃い色に染める加工がしやすい。

ちなみに琉球藍とは

キツネノマゴ科の低木リュウキュウアイ・常緑樹・樹高 60~90cm

<加工方法>

新鮮な葉を水に入れて一~二昼夜発酵

→残滓(残りかす)を除去し石灰乳(消石灰の懸濁液・強アルカリ)を加えて混ぜる

→インディゴを含む青色成分の沈殿物が「泥藍」。上澄み液は捨てる

タデ藍の染め方

① 生葉染め(原始的)

生葉をすり潰し、水を加え布で搾る

→搾り汁に染めたい布・糸を漬け、時々引き上げて風を通す

→20~30分空気に晒して発色

科学的に見ると、

インドキシル配糖体(インディカン)→加水分解でインドキシルに変化→空気酸化によりインディゴになって染まる

インディゴは水に溶けないのですぐ沈殿する、1時間で終わり

② 建て染め

科学的な原理は、

インディゴを還元させて水溶性のロイコ体にする

→布・糸に吸収させ、風にさらして酸化・染色

○古来の手法:灰汁(アルカリ性水溶液)と微生物で発酵し還元「発酵建て」

○科学的手法:苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)とハイドロサルファイド(亜ジチオン酸ナトリウム $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_4$ 、アルカリ性溶液中で強い還元力がある)「ハイドロサルファイド建て」
アルカリ性水溶液を使う理由は、ロイコ体はアルカリ性水溶液に溶解するため。

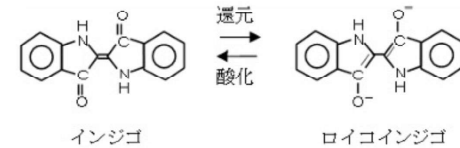


図3 インディゴの還元

タデ藍の薬効

タデ藍は漢方の生薬という側面もあります。葉や実を使用します。

生薬「藍葉」

生葉の絞り汁:→やけど・口内炎・虫刺され・痔

葉の煎じ液→解熱・解毒・魚やキノコの中毒

生薬「藍実」

扁桃腺炎・咽頭炎

また食物としてタデ藍を見ると、ポリフェノール(ケルセチン)がブルーベリーの4倍(グラム当たりの含有量として)という面もあり、また食物繊維とミネラルが豊富という側面もあります。

明治以降の藍染め

明治頃にはインド産の藍玉(インド藍がインディゴの語源)が輸入されるようになり、また人工合成の染料インディゴ(1890年代に開発された)が1904年から輸入されて、国産のタデ藍の染色は追いやられるようになってしまいました。また太平洋戦中下では食料の生産が優先されるために栽培が禁止されて一旦途絶えてしまった。戦後に栽培や技術や復活し、伝統産業・観光産業として維持され、特産品として商品開発を進める自治体もあります。
実は戦時中の栽培禁止の話は紅花でも起きています(今後執筆予定)。

<参考>

藍染とは(コメ兵)

<https://komehyo.jp/komeru/1021>

藍とは(徳島県)

<https://led-ai.pref.tokushima.lg.jp/ai/aitoha/>

熊本大学薬学部薬用植物園植物データベース

<https://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/yakusodb/detail/003445.php>

東京薬科大学東薬会 薬用植物園写真集

<https://www.touyakuikai.com/BotanicalGarden/2/ai.htm>

「藍染めを化学の視点から」牛田智、化学と教育 64 巻 8 号、2016

(文中の化学式はこちらから引用しました)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/kakyoshi/64/8/64_406/_pdf

「藍染めの歴史と科学」三木産業（株）技術室・本村光雄、裳華房

<ポッドキャストでもどうぞ>

このネタを元に、Spotify/Apple Podcast/LISTEN など、ポッドキャスト配信をしています。



理系とーくらボラジオ部『とくおのおと』

#54 江戸時代の色・藍色を科学する



5月の季節の花と
言えば、これです
かね…

2022年5月
撮影：鳥飼

8回の名古屋ウィメンズマラソン I

今年も名古屋ウィメンズマラソンを走ることができました。コロナで当日に走れなかった2020年のオンラインマラソンを含めると、8回目となりました。この8回、たくさんの思い出があります。

マラソン大会の目標は、まずはスタート地点に立つ、笑顔でゴールする、目標タイムを目指す、エイドを楽しむなど色々あります。毎年3月の第2日曜日が名古屋ウィメンズマラソンです。まだ風邪をひきやすい季節で、スギ花粉も飛びます。スタートに立つのはなかなか大変で、当日が近くなると、とにかくスタートに立つことしか見えなくなります。毎年ドキドキで、精一杯で時には辛いですが、終わればそれも楽しみでした。

今年の名古屋ウィメンズマラソンの目標タイムは、自己ベストの更新としました。まずは、元気にスタートに立つ事が重要です。それが叶わずに、タイムを狙って走るのではなく仮装ランに変更や、沿道から応援してくれたラン友さんもいました。私は、何とかスタートの指定されたブロックに並ぶことができ、そこで一人のラン友さんと偶然に会い、楽しくスタートまでの時間を過ごしました。いよいよスタート、何とかここに走って戻ってきたという祈りを込めて、スタートラインを超えました。できれば、スタートの時のように元気に戻ってきたい。私にとっては、何が起るかわからない名古屋ウィメンズマラソンです。今年もまた、42.195kmの珍道中が始まりました。沿道には、NuRunFor HeForSheと地元のラン友さんが、様々なところで応援してくださっているので、それを楽しみに約束の場所を考えながら走りました。応援の皆様に出会えるのか不安に思っていたところ、約束のところで応援してくださいました。7, 8, 10, 13, 31, 34km などなど、続々と会えました。ビブス（ゼッケン）は持っていても、怪我で出走を見合わせた友人が手作りの応援うちわを作って、19と36km地点で名前を呼んで力強い応援をしてくれました。後半の36kmは辛いところ、すごく励みになりました。どんな方の応援もとてもありがたいのですが、友人の応援は、力になり、言葉にならないくらい嬉しいです。速く走れるランナーは、周りに走っているランナーが少なく目立つのですが、私のタイムはコースを走っているランナーの人数が多くて、ランナーの私が沿道の人を見つけないと、なかなか会えません。走りながらずっと沿道見ていると疲れるので、会えなかった方もいました。とても残念で、申し訳ない気持ちいっぱいです。

たくさんの応援に励まされ、淡々と走っていたのですが、38km 付近から足が攣り始めて、走れなくなりました。コースで立ち止まると危ないので、コースから外れると、沿道の方に「スプレーあるよ〜。」と声をかけられ、見知らぬ沿道の3~4人にお世話になりました。中には、芍薬甘草湯まで下さいました。そうこうしていると、応援に来ていたラン友さんがいて……。脚が攣っている記念写真を撮ってくれました。ただでさえも走れなくて悔しいのに……。そこに、同じように脚攣りに悩みながら走っているラン友さんも偶然に会い、一緒に走りました。沿道から歩くな〜という声が聞こえたのですが、さすがに私に向けてそ

の言葉は、ありませんでした。私は、走ろうとしても走れないから、応援の方々は何も言えず沈黙していました。それ続けて、何とかドームまで帰り、ゴールは何事もなかったように、走って駆け抜けました。こんな状況なので、タイムは目標達成できず、自己ベストどころか、サブ4も遠く残念な結果でした。それでも、スタートに立てて、完走でき、そして何よりもたくさんの人の応援に励まされて楽しい時間でした。走れなかった19と36kmで応援してくれたラン友さんに連絡すると、応援している自分が励まされたと……。私の走りて人を励ますことができるなんて、思いもしませんでした。少し休養して、また来年に向けて走ろうと思います。

(過去の7回の名古屋ウィメンズマラソンは No.373 かけはしに掲載予定です。しばらくお待ちください)

私の8回の名古屋ウィメンズマラソン、毎回毎回様々なことがあります。こうやって振り返ると、1回1回走れていることが幸せに思いますし、貴重な経験をさせてもらっています。来年も再来年も、名古屋ウィメンズマラソンのスタートには立つつもりです。そして、またスタートがなくなる世の中が続くことを願います。私もいつ何があっても走れなくなるのか、わかりません。コロナやインフルエンザに感染したり、怪我をしたりしても走れません。いつ何の病気に罹るのか、わかりません。これから、楽しく、苦しく、悔しい経験あるかもしれませんが、その時を大切に走りたいと思います。毎年応援してくださるNuForRun HeForSheがあること、とても励みになっています。

吉村公美子



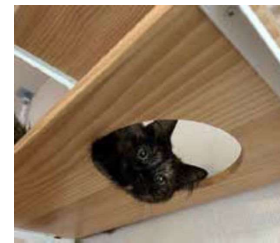
名古屋ウィメンズマラソン 2025 の完走賞

2025年の完走賞はパカラのタンブラーで、底面に名古屋ウィメンズマラソンのロゴが入っています。去年まではティファニーペンダントでした。他にフィニッシャーTシャツ、タオル、フードポットです。

ネコ写真集

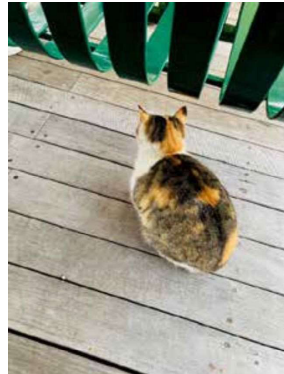
カラー写真はこちら (<https://www.nuocopy.jp/ccop/ccop2399.html>)

タビちゃん

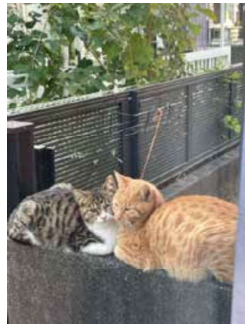


いつものレモン

ジブリパークで出会ったネコ



友人宅のビフォーアフター



before



after

なごねこ便り (28)

名古屋大学ねこサークル「なごねこ」は、名古屋大学内で地域猫・保護猫活動を行っているボランティアサークルです。

前回の「なごねこ便り (27)」で里親を募集しておりました子猫のごまちゃんですが、このたび正式譲渡が決まりましたのでご報告いたします。

ごまちゃんは昨年10月、クラブハウス付近に母猫とともに現れた子猫です。当サークルは約1ヶ月にわたって餌やりと環境整備を続けておりましたが、親子の安全を考慮した結果、子猫の保護と母猫のTNRを実行しました。母猫は避妊手術後に野生へ返し、子猫はワクチン接種と血液検査を済ませた上でサークル員の自宅にて一時預かりとなりました。しかし、まだ親離れができていない状態で子猫の保護を行ったため、二匹共に人間から心を閉ざすことになりました。

保護後1か月が過ぎたころから、新たな家族を探すために地域猫団体が主催する譲渡会に参加するようになりました。一時預かり先の環境には慣れてきたものの、他の猫や知らない人々が集まる環境下では震えてしまい、なかなかごまちゃん本来の様子を見せることができませんでした。何度か譲渡会に参加したものの、なかなか良いご縁に恵まれませんでした。そんな中、2月に開催された地域猫活動啓発イベントの第三回「にやるばーく！地域ねこ祭り」(第一回はなごねこ便り (25) にて紹介)で行われた譲渡会でトライアルが決定しました。

トライアル先のご家庭には先住猫がいたため、相性を確認するため通常よりも長期間のトライアルとなりました。しかし、先住猫との距離を縮められず、残念ながら正式譲渡とはなりません。ですが、トライアルの失敗を受け、ごまちゃんの一時預かりを行っていたサークル員のご家庭が終生飼育を申し出てくださったため、先日晴れて正式譲渡が成立いたしました。

少し時間はかかりましたが、ごまちゃんに安心できる家庭を提供することができ、私たちも喜びを感じております。

地域猫・保護猫活動をより身近に感じていただけるように、譲渡を行った猫の様子を少しずつSNSに投稿する予定です。そちらもぜひご覧ください。(Instagram / X : @meidaineko)

なごねこでは、今後とも大学内での地域猫・保護猫活動の実施や啓発を続けてまいります。引き続き当サークルの活動にご理解とご協力をいただけますと幸いです。

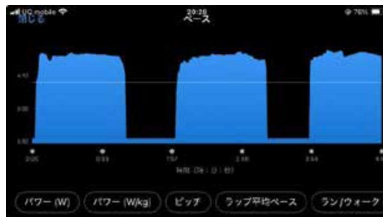
帰ってきた本棚を眺めて（４）～毎年読み返す本、繰り返すこと～

前回のかけはしが発行されてからは、ミハイル・ゴルバチョフ（自伝）変わりゆく世界の中で（ミハイル・ゴルバチョフ、副島英樹訳 朝日新聞出版 2020/7/20）の途中までと毎年読み返す本を読み始めたくらいだ。それよりも「自分で考えること」に時間を使った。前回紹介したショーペンハウアーのいう事が現実になった感じである。しかしわざわざそうしたというよりそう「なっていた」（※確かこの連載の一回目で紹介した感覚）というほうが現実に近い。読書でも考えることでも健康のためにする運動でも、「〇〇しなければいけない」よりも「〇〇したい」寄りの自然と行動がそちらを向いていくような、心の声に従ったほうが成果も大きいし人生は楽しいと思う。

本棚を眺めての本題に戻ろう。今回紹介するのは、具体的な本のタイトルではなく、本の読み方といったほうがいかかもしれない。私も以前は、本は一回読んだらそれっきり。学生時代の教科書や参考書、問題集も一回やり終えたらおしまいだった。しかし、公務員試験の勉強をしていた時に何度も何度も繰り返すことを覚えた。やればやるほどしっくり身につく（覚えるではない！）それは、読書でも同じで何度も読めば読むほど内容は身に付くし、著者の考えや人となりすら理解できるようになるかもしれない。それだけでなく同じ本を同じ私が読んでも、毎回感じ方や参考になる内容が違う。同じ本を何度も読んだ経験のない方は一度試してみてください。

帰ってきた委員長のランニングライフ② 走れています

前号で、次回も走ったことを記事にできるといいなと書きました。無事です。少しずつ走る時間・距離・強度が増えていっています。特に3月は久しぶりに月間50kmを超え、トラックで速い速度で走ってみたいと思うようになりました。一回だけですが、300m×3（休憩100m ゆっくり jog）をある月曜日の夕方に瑞穂で走ってきました。しかし、時計の使い方がわからず、うまくラップタイムが取れませんでした。しかしそのことすら、あーなんだかすごく久しぶり。ただいま。といった感覚になりました。写真は300×3の記録と2月、3月の記録です。右の数字は20段階の体感強度で、10がすごく楽、20が死にそう、15が簡単な会話ができるくらいの感覚です。



2月	
24分30秒	(3.22km) ①
25分30秒	(5.3km) ②
26分30秒	(4.03km) ③
27分30秒	(3.84km) ④
28分30秒	(4.55km) ⑤
29分30秒	(4.15km) ⑥
30分30秒	(6.17km) ⑦
31分30秒	(5.0km) ⑧
32分30秒	(3.34km) ⑨

37分30秒	(5.24km)
38分30秒	(2.86km)
39分30秒	(2.86km)
40分30秒	(4.46km)
41分30秒	(6.14km)
42分30秒	(4.45km)
43分30秒	(6.48km)
44分30秒	(4.3km)
45分30秒	(1.35km)
46分30秒	(4.85km)



かけはしの輪



前号の感想

●留学体験のお話はクスッと笑ってしまい楽しく拝見しました。外国の方が感じる日本独特の文化は面白いです。
読面が大変読みやすくなりました。【匿名】
（編）ホントですか？ それは嬉しいです。まだまだ書体の選定や統一などでできていないこともあると思っていましたが、提案していただいたことをきっかけにいろいろ試してみた甲斐がありました。

●ボテロ展に行って、ポストカードを買ったことを思い出して、久しぶりにポストカードを部屋に飾ってみました。【しゅしゅしゅ】
（編）コメントをありがとうございます。帰ってきた本棚をながめての内容が意外なきっかけになったことを面白いな、書いた甲斐があったなと思っています。

●初めて読ませていただきました！ とても面白かったです。
私は普段は活字をほとんど読まないのですが、南部食堂の出口に置いてあるのを見て、興味本位で手に取り読み始めてみたところ、読みやすい上に内容が面白くすぐに全部読み終えてしまいました。大仏作りと金属技術の話が特に面白かったです！ 様々な分野が繋がっているんだなぁと実感させられました。【ブルーハワイ】

（編）初読み、初コメントともにありがとうございます。嬉しいコメントです。南部食堂の入り口には、No.371から置くようになったので手に取ってもらえる機会が増やした効果を実感できました。
（鳥飼）コメントありがとうございます。東大寺大仏の開眼供養で使われた開眼の筆には絹の縄「纏縄（ハナダ）ノル」」がつかって、これに触って功德を預かったと言われています。この縄、実は日本最古の藍染めの品です。大河ドラマ「へらばう」の暖簾や衣服に使われている伝統の染め物です。藍染めの話は今号の「日本史×科学」で書きましたので、そちらもぜひ。

<https://konya-kyoto.com/aizomeshokuninngakararuai/3052/>

●親の地元でもある長崎は魅力的な街なので大好きです！ ぜひ国籍問わず皆さまに、ハウステンボスやグラバー園、大浦天主堂など、オススメしたいです！！【ウェルチ】

（編）私も、お勤めの街を尋ねられた時は、「長崎」と答えるくらい、長崎好きです。どこが？というのはうまく言葉にできず、「雰囲気」と答えていますが。もしよかったら長崎の紹介記事をかけはしに投稿していただませんか？

●スネート先生の来日、日本での体験談エピソード楽しく拝見させていただきました。かけはしは職場の回覧でまわってくるので、最近あまりみておらず、久しぶりに楽しめました。【よっしー】
（編）No.371から、南部、北部、理系、研究所の各食堂・購買にも置くようにしたので、良かったらそちらでも手に取ってください。
（スネート）書いた原稿を読んでくださった方が感想を寄せてくださることを想像していなかったの、びっくりしました。ありがとうございます。

●奈良の大仏の話が興味深かった。莫大な材料と歳月がかかっただけでなく、多くの犠牲も伴った大事業であることを痛感した。【匿名】
（鳥飼）水銀の健康被害については、先ごろ蛍光灯の製造・輸入が2027年に禁止される話もありますが、世間でその危険性が認識されるようになったのはあの水俣病からだそうです。慢性の毒物はなかなか原因究明が難しいですね。

●日本史と科学のページは、ちょうど今年のセンター（もとい、共通テスト）でも話題になったので、面白い話として読みました。夫が日曜大工、いやDIYをよくするのですが、たまに「あれ？なんか薬品塗った？私はいいけど、子供達がラリっちゃわんか？」と。ラリるなんて言い方イマイチきませんよね、きっと。【タッチー】

（編2）塗料等を使用される際は換気にご注意いただき、DIYをお楽しみくださいませ！

●ネコの写真がかわいいです。

【やまだままだやまだ】

（編）ネコ様は何をしても可愛いですよねー。これからもネコ写真集をお楽しみください。

●豊田講堂のハンカチ、色合いが綺麗ですね。綺麗すぎて使うのがもったいないかもしれません…

【匿名】

(編) 私も買いました!! 綺麗でいいですね。

●私も走っているの、ランニングの記事を楽しみにしています。【匿名】

(編) ありがとうございます。よかったです日々のランニングやレースの参戦記録など投稿しませんか?

●留学生の泥酔事件は怖かっただろうな、と思いましたが、確かに強制送還は厳しい判断だったな、とも感じました。【花中島マサル】

(編) 異国の地でのことなので猶更怖かったですよね。強制送還は厳しい判断だったのか? なんと難しい問いかけでしょうか。10人いれば10通りの答えがありそうですね。

●初投稿です。【匿名】

(編2) クイズのご回答もありがとうございます! 結果は裏表紙をご確認ください。

●とても充実していて、最後のページまで楽しく拝見しました。特に「委員長の帰ってきたランニングライフ」とネコ写真集がお気に入りです。生協職員さんの紹介も、職員さんを身近に感じられてよかったです。いつも魅力的な誌面作り、お疲れ様です&ありがとうございます。【めぐめぐ】

(編2) こちらこそありがとうございます。編集の励みになります。今号もぜひお読みください。

生協への意見・通信

●ラボショップで購入できる食品を検討いただきました。もう少し少量サイズのお弁当があると嬉しいです。今の品揃えでは量が多すぎ、また美味しくしてはいないため購入に至りません。

ホットコーナーにあるお弁当や丼も量が多すぎます。おにぎりを何種類か温かい状態で置いていただくのも良いと思います。【匿名】

(編) お弁当の改善について、理事会に伝えます。

●本部3号館の出張弁当販売がなくなったのはとても残念です。人件費、材料費、経営方針等いろいろ課題があると思いますが、そういったサービスが少しずつ削られていくのはとてもさみしいです。

【よっしー】

(編) こちらも理事会に伝えておきます!

●お得なセールなどの情報が欲しいです。

【やまだままだやまだ】

(編) No.370で紹介した、生協メルマガに是非ご登録ください

生協メルマガ

<https://www.nucoop.jp/wfm/mailmagazine/>



●シェニール織のハンカチは有名ブランドのフェイラーかな?と思うくらいおしゃれだったので、如何にも大学のグッズ!! ではない商品も取り揃えてほしいです。【花中島マサル】

(編) ありがとうございます。グッズ制作の意見として、理事会に伝えるようにします。確かに、いかにも大学!! というものよりそうでないものやこでしか買えないというものは魅力があるかもしれませんね。

●せっかくの名古屋大学にある生協です。そりゃもちろん、教職員の皆様や学生さんが満足してもらるのが一番です。だからこそ、外から(名古屋だと有名なひつまぶしの蓬萊軒さんのように)のお客さんに「名古屋大学に來な買えんもん」(名古屋大学に來たからこそ買ってほしいもの)を一つでも買ってもらえる物を考えるのもありではないでしょうか。【タッチー】

(編2) 名古屋大学生協でしか買えないものを検討してほしいと理事会に伝えるようにします!

●マラソン大会体験記(参加記)【めぐめぐ】

(編) 良かったら日々のランニングや、レース参戦記録を投稿してみてください!

編集部より

今回より「かけはしの輪」のページのフォントを改善いたしました。いかがでしょうか。

今回は巻末に漢字クイズをご用意いたしました。巻末のクイズのページ左上に付いているQRコードからご回答をお寄せください。

パソコンからの応募の場合は、

「かけはし クイズ回答」

のキーワードで検索していただくとクイズ応募フォームのページに行くことができます。

ご応募の際、「かけはし」の感想、生協へのご意見などなんでも結構ですのでお書きください。皆様のご応募お待ちしております!

生協職員紹介 第44回

■自己紹介

いつも生協をご利用いただきありがとうございます。私は岐阜市に住んでおり、毎日2時間かけて名古屋大学まで通勤しています。出身は岐阜大学で農学部(現応用生物科学部)出身で食品関係の研究をしていました。大学生協とは学生時代に出会い、学生委員会として活動し、当時阪神大震災のボランティア活動などやってきました。

■どんな仕事を?

組合員加入脱退や共済関係、そして食パスの事務作業など行っています。

また理事会や総代会などの機関会議の準備など主に専務理事の補佐をしています。

教職員委員会ははじめ学生委員会、留学生委員会、そして昨年復活した院生委員会とも関り、元気な名大生協づくりに貢献したいと思っています。

■趣味・休日の過ごし方

料理が好きで、休日は家族の分を作ることが多いです。TickTockなどで動画を参考にしながら新しいメニューを作ったりします。冷蔵庫の余り物でおつまみを作るのが得意です。

■読者の皆さんへひとこと

教職員の皆様にぜひ生協の運営やご利用に関わっていただければと思います! 生協が皆様の研究生活などの一助となれるようがんばります!

理事会室
室長 青山 武史



○生協の営業時間は生協のホームページをご覧ください。

<https://www.nucoop.jp/>



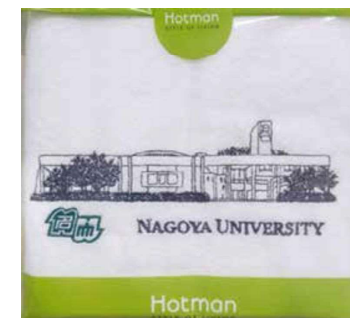
名大グッズ紹介 第44回

名大タオル(1秒タオル)

ホットマン株式会社の「1秒タオル」の豊田講堂ver.が発売されました。

豊田講堂が刺繍されており、贈り物にも最適です。

「1秒タオル」とは、1cm角のタオルを水に浮かべた時に1秒以内に沈み始める吸水性の高いフェイスタオルです。(大きさは35cm×90cmです)



販売価格: 2,200円(税込)



CO-OP QUIZ

No. 372
2025年5・6月号

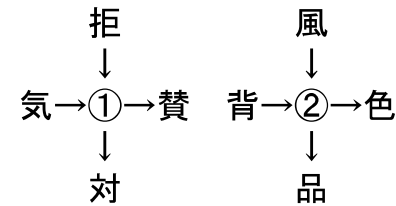
今回も漢字クイズをご用意しました。
以下のクイズが解けたら、左上のQRコードからご応募ください。
パソコンからご応募の方は
<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html>
もしくは「かけはし クイズ回答」のキーワードで検索すると上記ページにアクセスできますのでご応募ください。
クイズの解けなかった方はご意見ご感想だけでも結構です。お待ちしております！
クイズ正解者および、ご意見ご感想を送っていただいた方の中から5名様に「生協電子マネー（Meica）500円分」を差し上げます。
（当選者の生協電子マネー残高に自動チャージいたします。）



371号の解答： 書籍



中央の①と②に漢字を入れて、矢印の方向に読んで二字熟語をそれぞれ4つずつ作ろう。さらに、その①と②とを並べて二字熟語を完成させよう。それがクイズの答えです。矢印の向きにも気をつけてね！
（ヒント：一度は目にしてみたいですね）



答え：①②



○ 締切は5月31日 （正解発表は372号） ○ 応募は左上のQRコードから ○ クイズ正解者・ご意見や感想の記入者（いずれも生協加入者） ○ 但し、当選後のご加入も可）の中から、抽選で5名の方に生協電子マネー500円分をお贈りします。 ○ 生協へのご意見・ご要望をどしどしお寄せください。	応募要項	当選された方の生協電子マネー（Meica）残高に500円分をチャージさせていただきますのでお待ちください。	佐藤 亜希江（南部食堂パート） 谷口 光隆（農学部・生命農学研究科） 山田 海斗（理学部・理学研究科） 大桑 康史（総務部） 芦澤 亮（工学部・工学研究科） 菅澤 亮（工学部・工学研究科）	正解者数 14名 当選者（敬称略） 371号の正解者 14名
--	--------------------	--	---	---